

第5回 八戸市公民館特別企画 演劇公演

チケット取扱先 八戸市公会堂 八戸市南郷文化ホール 八戸ポータルミュージアムはっち 三倉屋 八戸市民劇場

# 我が内なるラピュータ

前原 寅吉の夢

梶谷伸夫…作  
三浦 哲郎…演出

2018  
5.25(金) 開場:PM18:00 開演:PM18:30  
26(土) 開場:PM13:00 開演:PM13:30

全席自由 場所:公会堂文化ホール

前売り 一般 2,000円 学生 800円  
当日 2,500円 1,000円

※前売り券が完売の場合、当日券の販売はありません。

天文山時計店の店長から、仕事しながら暮らす寅吉の浪花節が聞こえてくる。白昼から明けの修理に来た顧客越後清吉との話かけず。彼らにはかみがいしく働く妻ナカカミの姿が……。そして、明治43年初夏、太陽面通過のハレー彗星へ望遠鏡を向ける寅吉。果たして……?

【主催】八戸市公民館 (株)アート&コミュニティ(八戸市公民館指定管理者) 【問合せ】八戸市公民館 TEL 0178-45-1511

第5回八戸市公民館特別企画  
**我が内なるラピュータ**  
～前原寅吉の夢

5月25日(金)開場18:00 開演18:30  
5月26日(土)開場13:00 開演13:30

八戸市公会堂文化ホール 全席自由

前売り 一般2000円 学生800円  
当日 一般2500円 学生1000円

演劇とは何か。

「俳優が観客を前にして、舞台の上で、ある思想や感情を表現し伝達しようとする一連の行為。時代とともに俳優、客席の設備、舞台機構、思想や感情は多様化した。観客が演劇に求めるものは、やはり集団的な共同体験である(ブリタニカ国際大百科事典)」。だそうです。

直感で言えば、人工知能がどんなに発達してロボットが人間の代替えをしようとも演劇や歌と踊りだけは人間のもののような気がします。

平田オリザ氏などによるロボット演劇プロジェクトも進んでいるようですが、人とロボットが対する芝居はともかく、ロボットだけが出演する芝

## 野の天文学者・前原寅吉の世界を作る

居を観たいと思えるか、感動することがあるかどうか。

数日数回、時には1度だけの上演のために何日も何日も稽古に時間を費やして、費用対効果を考えればこんなに非効率な営為もないように思われます。

だのに、なぜ、何を探して君は演ずるのか。そのところ少し知りたいと思うのです。

「演劇をやめたいと思ったことは全くない。台本を書くことでは、資料を集めたりするところから始まるし、その作業が楽しい。その中から梶谷ワールドを作っている人々を書き込んでいく。辛いこともいっぱいあるんだけど、それがまず1つの喜びですね」

そう語るのには、八戸市公民館館長の梶谷伸夫さん。梶谷さんは八戸を代表する演劇人の1人であり、演劇集団ごめ企画代表。5月25日(金)、26日(土)に八戸市公会堂文化ホールで公演する演劇『我が内なるラピュータ』前原寅吉の夢』で、主役の前原寅吉を演じます。

作品で描かれるのは、「野の天文学者」として知られる八戸市の前原寅

吉。1872(明治5)年、前原家三男として類家で生まれ、時計屋で奉公を始めた後、独立して番町で「前原時計店」を創業。

幼い頃から宇宙へのあこがれが強く、10歳の頃から「天文日誌」を書き、天文学や物理学を独習していました。1905(明治38)年に太陽黒点の観測に成功したことがきっかけで1908(明治41)年に日本天文学会特別会員となります。

1910(明治43)年には、世界で唯一、ハレー彗星の太陽面通過の観測に成功して脚光を浴びました。また、同年の白瀬中尉の南極探検出発に際し、星座表を利用することで時間を知らせることができる「星座時計」を製作・寄付しています。

1913(大正2)年の大凶作を念頭におき冷害の原因を天文学に求めてその研究・普及に努めました。さらに、消防用水鉄砲型ポンプや馬用体温計などの発明品を多く製作しています(八戸市HP「八戸の先人」より)。

寅吉は太陽の観測も続けた影響のためか40代で失明しますが、その後も研究を続けて貢献します。1950(昭和25)年、78歳の生涯を閉じました。

ドラマ仕立てのNHKテレビ「タイムスクープハンター」でも『野の天文学者、前原寅吉』として紹介されました。

我が内なるラピュータを演出する

## 演出家 三浦哲郎さん



三浦 哲郎 (みうらてつろう)さん

1965(昭和40)年田子町に生まれる1983(昭和58)年青森県立八戸北高を卒業後、上京し五月舎養成所に入所。以後、俳優として舞台、テレビ、映画、CMなどに出演。現在はフリーの演出家として活動する。

「我が内なるラピュータ」前原寅吉の夢」の演出を担当するのは、田子町出身で東京在住のフリーの演出家、三浦哲郎さん。八戸北高に進学し、勧誘されて演劇部に入部。「高校生にプロの仕事を要求するような顧問・小寺隆昭先生の指導」を受けて八戸で3年間を過ごします。

八戸市民劇場で五月舎公演『イーハトーブの劇列車』(井上ひさし作)を観て、パンフレットに載っていた「養成所生徒募集・無料」の広告が、進路を決定づけます。

自分は暗い、と山のようなコンプレックスを抱え、地元がすっかりいやになっていた三浦さんは「今しかない」と上京を決断。10倍という関門を通って養成所の研修生となり、次の年には下北沢にある本多劇場の舞台に立っていました。

出てきたばかりの東京・恵比寿の三畳一間から眺めた明るい青空が今でも目に浮かびます。その後は俳優として舞台、テレビ、映画などに出演しましたが、この10年ほど演出の仕事が主となり役者の活動は休止状態。きっかけはかれこれ30年前に当時の芝居仲間から演出を頼まれたことからでした。

それまで演出の勉強したことがなかった三浦さんでした。

が、所属していた五月舎は作品ごとに旬の演出家を招くプロデュース・システムだったことが経験として役に立ちました。

「最初は大変で、音楽、衣装、照明、音響、役者の演技——演出ってこんなに細かいことまでするのか、大変な仕事だと思いました。常に全体のことを考えなきゃいけない。作者で主演する榎谷さんにもかなり厳しいことを言っている(笑)。自分のイメージの決めつけです(笑)。決断力は早くなりました。そうでないとお客さんに分かってもらえない」。

演劇集団ごめ企画のほぼすべてを演出してきましたが、今回の『ラピュータ』はこれまで舞台を観たこともなく初演出です。

すでに30本近くを演出してきた三浦さん。「やっぱり根っこは小寺先生なんです。演劇の運び方というか、血の中にぬぐえないものが残っていて、東京でそれを膨らましていっている感じですよ」

毎年夏に公演される「食育」がテーマのショー&ミュージカルを担当して10年になります。本読みの稽古を終えて、その準備に一旦東京に戻り、『ラピュータ』の稽古と本番のために再度、八戸に来る予定です。





# ドクトルヒグチの

# ペットのお話 おはなし

## ⑭…猫の幸福論

として各々の動物種の本来の生態や習性に従った自然な行動が行えるようにする。

⑤ 恐怖や苦痛からの自由として精神的苦痛、過度なストレスとなる恐怖や不安を与

猫の幸せを考える時、「人の幸せ」もわからないのに、猫の幸せなどわかるはずがありません。そういう人でも「人は、他人の幸せよりも、他人の不幸に敏感」だったりする。幸せよりも不幸の方が考えやすい。まずは猫の不幸からの解放を考えなくてはならない。

現在では、家畜だけではなく、愛玩動物など、人間の飼育下におかれた全ての動物に対する福祉の基本として世界中に認められている動物の5つの自由を示される動物福祉の評価がある。

それをを概略すると

① 飢えや渇きからの自由として健康を維持するために栄養的に十分な食餌を与えられている。きれいな水をいつでも飲めるようになっていく。

② 不快からの自由としてキツすぎる首輪など苦痛のある飼育環境にない、それぞれの動物にとって快適な環境を用意できている。

③ 痛み、外傷や病気からの自由として病気になるようにふだんから健康管理をし、痛み、外傷あるいは疾病の兆候があれば、十分な獣医療が施される。

④ 本来の行動する自由として

えず、動物も痛みや恐怖、苦痛を感じてを理解し、もしその兆候があれば原因を特定して軽減に努めることとある。

人の幸福とは何か？

2つあって、

1つ目の幸福は地位、名誉、お金、物や友人、親、兄弟、健康にも恵まれ何不自由なく暮らしている人ではないか。ただこの状態は、他との関係に成り立っている以上、相手の状況如何ですすぐにも不幸になる可能性がある。

2つめの幸福は、自分が生きていくこと、そのことに限りなく感謝できることであって、何が起きてもそのことに粉動されず、見るもの、聞くもの、楽しいな、楽しいなと感じられる人ではあるまいか。

飼われている猫は、最高の幸せな人に飼われてこそ最高の幸せを獲得できる。したがって猫の最高の幸福は、2つめの幸福な人に出会い、ともに生涯過ごすことができることに尽きるのです。

猫好きの皆さん、まずは自分自身が幸せになりましょう、愛猫のために。

### 樋口誠一(ひぐちせいいち)

「健康動物病院」院長。  
獣医学博士。  
北里大学名誉教授。

【健康動物病院】  
青森県八戸市蛟町二子石11-3  
(八戸線 蛟駅 となり)  
0178-34-1890  
info@kenkou-ah.com



福島県 伊佐須美神社  
伊佐須美神社は「今、自らの人生においてこのまま進むべきなのか進路を引き返すべきなのか」を教えてくれる場所と言われている神社。2008年に火事に見舞われ再建中ではあるが境内はアヤメの花が咲き乱れ毎年アヤメ祭りが行われている。

Photo by Masahiro Nagane  
Free. Game of Comprehensive manager

## 今しか出来ないことを楽しむ

新年度が始まり一ヶ月程たった頃だと思う。

小学校に入学、中学校に進学、高等学校への進学、そして大学や社会人へと旅立ち、そろそろ慣れ始めてきた頃だと思う。

みんなそれぞれ「不安」と「希望」の相反する気持ちを抱え次の段階へと一歩を踏み出し、「慣れ」が出始めた頃だろう。

社会人へと一歩を踏み出した人たちは、学生時代とは全く異なる生活が始まりさぞ大変なことだろうと思う。

今号では社会人を対象ではなく各段階へ進学やクラス替えが伴った人たちを対象に語りたと思う。

まず、進路希望が叶った人にも残念ながら志望校への進学が叶わなかった人にも、「受験、お疲れ様でした」。

志望校合格に向かって必死に勉強し、塾に勤しんだりしたことでしょう。そこで聞きたい。

進路希望が叶った高校生の皆さんには、もう一度考えてもらいた

## Let It 学 まな Be



長根正泰  
ながねまさひろ



い。「何故、合格したその進学先を望んだのか。そして、どういう将来の夢を抱いているのか」

そして、残念ながら志望校に入学できなかった皆さん。「希望・志望が叶わずに入学した進学先で、君たちは何を目標とするのか」

私自身、志望高校にも志望大学にも願いが叶わなかった人間である。しかしながら大切なのは「今、自分が置かれた環境で何ができるのか？」

決して志望する学校に入学できなかったからといって将来が閉ざされるわけではないのだ。

現に私がそうだった。志望は全て叶わなかったが自分が置かれた環境で自分が望む分野に没頭した。

確かに身に置かれた環境にそぐわない事をすれば教員からは疎まれるかもしれない。それでも、自分がしたかった事、望んだ事に向かって真っ直ぐに突き進むことは素晴らしい輝いて見えるものだ。

そして、それは最終的には必ず認められる。仮に認められなくとも自らの夢や希望に突き進むことで「後悔」はしない。

大事なことは「後悔」をしないことだ。 U

福島県 猪苗代湖  
3.11からの復興は以前続いているものの、福島はとても美しい都市だった。

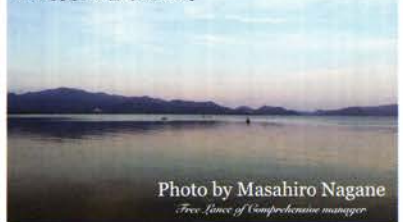


Photo by Masahiro Nagane  
Free. Game of Comprehensive manager